

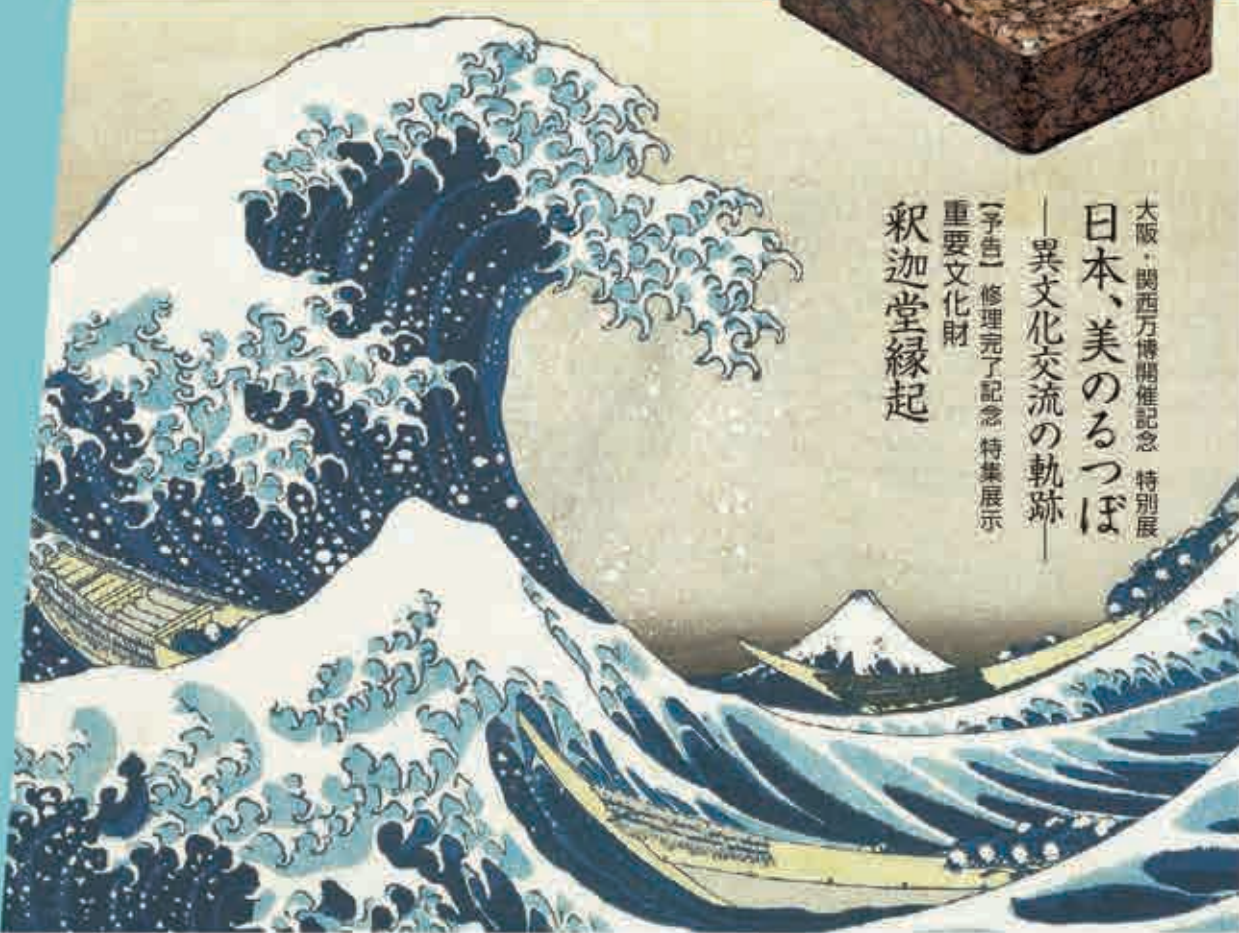


# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2025 April to June vol. 226



大阪・関西万博開催記念 特別展  
日本、美のるつぼ  
— 異文化交流の軌跡 —  
〔予吉〕修理完了記念 特集展示  
重要文化財  
釈迦堂縁起



京都国立博物館  
だより

二〇二五年  
四・五・六月号

「大阪・関西万博開催記念 特別展」

# 日本、美のるつぽ

## 異文化交流の軌跡

令和7年4月19日(土)～6月15日(日)

【主な展示品】

前期展示が4月19日(土)～5月18日(日)

後期展示が5月20日(火)～6月15日(日)

※全期中、一部の作品は起立以外にも展示替えをいたします。

【平成知新館】

大阪・関西万博の開催を記念して、交流をテーマにした日本美術の歴史を振り返るこの展覧会は、きつと少しユニークな構成です。

まずはプロローグで「万国博覧会と日本美術」の深いつながりをおさらいします。

十九世紀後半、西洋では万博が大いに盛り上がる中、日本は明治維新を迎え、富国強兵を目指す殖産興業政策の一環として、西洋の美術市場に骨董品やそのコピーを大量に送り込みました。西洋人が抱く日本美術のイメージは、その骨董品や浮世絵によって形作られ、北斎や光琳が人気を博しました。これに対して、明治政府は万博を舞台に、日本が高尚で格式のある「美術」の「歴史」をもつ「文明国」であることを世界に示そうと決意します。一九〇〇年のパリ万博では、日本初となる西洋式の「日本美術史」をフランス語で編纂し、豪華な装丁で展示したのです。

この「日本美術史」には、当時、古社寺で行われた宝物調査の成果が盛り込まれ、今では国宝や重要文化財として名高い品々が収められています。翌年には日本語版も刊行され、これがいわば政府公認の美術史として、現在私たちが知る日本美術史の基礎を築きました。一方で、西洋での光琳人気に刺激され、日本でも宗達に端を発する「琳派」という概念が生まれ、日本美術の代表格として語られるようになります。私たちが知る日本美術史は、まさに万博をきっかけに、近代西洋諸国に向けて「日本」の魅力を発信する自画像として誕生したものと考えるのです。

しかし、日本に伝わる美術品は、閉ざされた島国で孤立無援に創り出されたわけではありません。むしろ、異文化の影響を色濃く反映し、海外との活発な交流を物語る作品が多く存在します。この事実を、名品の数々を通じて、時代を追いながらじっくりと感じ取ることができると、それが、この展覧会の真骨頂です。

第一部「東アジアの日本の美術」では、古代から中世の中国大陸や朝鮮半島とのつながり、仏教を学ぶために往還した人々の活動、そして交易によってもたらされたさまざまな文物を見つめます。これにより、古代日本の国際色豊かな儀礼が目に浮かび、各時代を生きた人々の深い信仰や旺盛な知識欲、そして燃えるような好奇心に、きつと胸が高鳴ることでしょう。

途中のトピック展示「誤解 改造 MOTTAINAI」では、舶来品を模倣するときに生じたちよつとした誤解や、自分好みに施された「屋改造」を楽しんでいただきます。そして、あまりにも貴重だった舶来品を、壊れてもお愛するために編み出された独自の技法に触れることで、この島に住んだ人々のセンスや技術に驚かされるかもしれません。

第二部「世界と出会う、日本の美術」では、西洋の大型船がアジアの海に現れ、地球規模で広がった交流に圧倒されることでしょう。ヨーロッパ諸国をはじめ、インドネシア、インド、ペルシア、メキシコといった遠くの国々と近世日本のつながりを、美術品を通じてゆるやかな旅が待っています。また、朝鮮通信使との知的交流や、中国から伝わった新しい禅宗などの影響で盛り上がった「新・中国趣味」もぜひお見逃しなく。

展覧会の最後を飾るエピソード「異文化を越えるのは、誰?」では、ポストン美術館からの里帰り展示となる「吉備大臣入唐巻」が登場します。奈良時代の国際人、吉備真備(六九五～七七五)の生涯や、その活躍を数百年後に描いた愉快でマンガのような絵巻の内容も実に興味深いのですが、この作品には、異文化との出会いと美術鑑賞にまつわる、とても重要なエピソードが秘められています。詳細は、ぜひ会場でお確かめください!!

キャッチフレーズは、「出会い、海を越える」。みなさんの想像力がすばらしい品々と出会い、時空を超えて広がる素敵なひとときとなりますように。(永島明子)



重要文化財 宝誌和尚立像 京都・西住寺

十八羅漢坐像のうち羅刹羅尊者像 造像生作 京都・萬福寺



羅刹羅は出家前の釈迦の子で、自分の中に仏がいるのだと胸を開いて見せています。作者の范道生は黄葉宗の開祖・隠元によって中国から宇治の萬福寺に招かれ、仏像の制作を行いました。范道生の作風は同時代の日本の仏師に影響を与え、黄葉様と呼ばれる新しい様式が生み出されました。



国宝 藤原公徳御経巻 義経絵巻第二(部分) 京都・高山寺(巻替あり)



地蔵菩薩像 東京国立博物館(後期展示)

### 『Histoire de l'Art du Japon』に掲載された作品たち



国宝 聖相華嚴院繪加藤繪襦子箱 京都・仁和寺



重要文化財 醍醐経五式銅譯 滋賀県野洲市小幡原字大岩山出土 東京国立博物館



嵐山快晴



山下白雨



神奈川沖浪裏

江戸時代の「娯楽品」にすぎなかった浮世絵は、海を渡ると芸術として大ブレイク。ことに北斎の版画はゴッホやドビュッシー、クローデルらパリの芸術家に影響を与え、日本美術のアイコンとなりました。北斎の名声は日本に逆輸入され、「グレート・ウェーブ」として「神奈川沖浪裏」は、世界で最も有名な海の絵として日本のパスポート、新千円札に採用されるまでに、異文化交流が生んだ世界の名品です。

富麗三十六景 葛飾北斎画 山口県立美術館蔵・黒上記念館(前期展示・全権路は和泉市久保田記念美術館所蔵品を展示)

世界が絶賛した日本美術の代表格、「琳派」の祖。

今や誰もが知る国宝ながら、江戸時代における消息は定かでない、本作の存在が広く知られるようになったのは明治時代後半になってからのことです。先んじて西欧で高く評価されていた尾形光琳、そして酒井抱一へと連なる琳派概念の形成は、近代国民国家として歩み始めた日本が必要とした「伝統の創出」でもありました。

国宝 風神雷神図屏風 横濱市達磨堂蔵・鎌倉



『Histoire de l'Art du Japon』(『日本美術史』) 千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局蔵 東京国立博物館(真替あり)



色紙箱部散存品、複製 京都国立博物館

日本が国家として初参加したウィーン万博からの帰国時、展示品を載せたニール号が伊豆沖で沈没しました。本品はその約一年半後、海底から引き揚げられた積み荷の一部です。奇跡的な保存状態が注目され、跡絵が豪華客船の内装に採用されるきっかけを生み出した。

「ろくろ」って? もとは、金属を溶かしたり化学実験をしたりするために、物質を高温で熱するのに用いる耐熱性の容器。転じて、種々のものが混合、融合する「ろくろ」とも使われています。本展では、日本列島にもたらされた様々な異文化が混ざり合い、美しい品々を生み出してきた歴史を「日本、美のるつぽ」と題し、その旅を楽しみます。

誤解 改造 MOTTAINAI

中国の後漢～南北朝期に製作された画像鏡。図様は4区画にそれぞれ、両脇に侍女を従え通天冠を被る東王父と、鬚を結う西王母、右向きに重なる龍虎像と後方に小人物像を伴う御者が操る車馬像が対置されています。



中国製

重要文化財  
神人車馬画像鏡  
奈良県北葛城郡河合町佐味田宝塚古墳出土 東京国立博物館

中国の画像鏡を比較的忠実に模倣した国産鏡。東王父・西王母と車馬像は、神像の髪型や手足、御者の変形や小人物の省略など、著しく形骸化していますが、新たに躍動感も加わりました。



変形神人車馬画像鏡  
出土地不明・神田喜一郎氏寄贈 京都国立博物館

日本製

お手本にして作ってみたいもの！

義満、義政、信長、秀吉、家康へと伝わった唐物の“大名物”



唐物茄子茶入 付藻茄子 東京・静嘉堂文庫美術館  
(前期展示 ※後期は同館〈唐物茄子茶入 松本茄子(紹興 茄子)〉を展示)

繕いがあえての見どころ



青磁輪花茶碗 銘 銘 愛知・マスプロ美術館



重要文化財 鳥獸文様緞織陣羽織 豊臣秀吉所用  
京都・高台寺 (4月19日～5月11日展示)



樓閣山水蒔絵水注 京都国立博物館

大航海時代の南蛮船が日本にもたらした貴重な織物が秀吉の陣羽織に変身！



二十四孝図巻 乾巻(部分) 土佐光祐ほか筆

初公開

と き み つ す け つ り さ わ た ん さ ん  
土佐光祐、鶴沢探山ら日本人画家24名の絵に、朝鮮通信使随員が序文等を寄せた合作。享保4年来聘の通信使製述官(書記官)申維翰(シン・ユハン)の紀行文『海游録』に制作経緯が記されており、江戸からの帰路大坂に滞在していた一行のもとを儒学者雨森芳洲が訪れ、その依頼により序文が書かれたことがわかります。江戸時代における日朝間の文化交流を示す貴重な作品です。

国宝級の絵巻が里帰り！

奈良時代の遣唐使・吉備真備が、唐の国で皇帝の出す難題に応え、貴重な書物や囲碁を日本へもたらす物語を描いた絵巻。出題を事前に盗み聞きしたり、囲碁の対局中に相手の石を飲み込んだりと解決法は型破りで、描かれた真備の飄々とした雲囲気も相まって愉快的な笑いを誘います。



吉備大臣入唐絵巻 巻第四(部分) 米国・ボストン美術館  
Museum of Fine Arts, Boston Museum purchase with funds by exchange from the William Sturgis Bigelow Collection, 32.131.4  
Photograph © 2025 Museum of Fine Arts, Boston

〔予告〕  
〔修理完了記念 特集展示〕

# 重要文化財 釈迦堂縁起

7月8日(火)～8月24日(日)  
※全席中、無料観覧です。  
〔平成知新館2F・2.3〕

京都・清涼寺(嵯峨釈迦堂)が所蔵する「釈迦堂縁起」(重要文化財、六巻)は、同寺の本尊である「三國伝来」の釈迦如来立像の由来などを収録した室町時代の絵巻です。伝承では狩野派の第二代・元信(一四七六～一五五九)が絵を描いたといわれ、これは明快な構図や濃彩の画風から認められています。漢画出身の狩野派がやまと絵の領域に進出し両様式の融合を高い水準で果たした記念碑的作品として、日本絵画史上に意義深く位置づけられています。

このたび、朝日新聞文化財団の助成を受け、「釈迦堂縁起」の修理が令和二年度(二〇二〇)から令和四年度にかけて実施されました。これによって画面の折れや亀裂といった損傷が解消され、絵の鮮やかさ・緻密さが一層引き立つようになりました。それだけではなく、絵巻の制作背景にかかわる新知見も得られたことが大きな成果といえます。

本展は、修理後をはじめ「釈迦堂縁起」を展示し、大陸から日本へ渡る釈迦像の物語を全巻通してご覧いただける貴重な機会となります(会期中、巻替あり)。春・秋の特別展とも深くかわる東アジア仏教の壮大な物語であり、狩野派の重要作例でもある本作の新たな魅力を、文化財修理の意義とともに多くの方々に知っていただきたいと思えます。

〔井道林太郎〕



重要文化財 釈迦堂縁起 巻第三(部分) 京都・清涼寺(この場面は6月5日～24日展示)



重要文化財 釈迦堂縁起 巻第五(部分) 京都・清涼寺(この場面は7月8日～8月3日展示)

三ツツシテムパートナー一覽 令和7年3月末現在  
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」土屋 和之  
株式会社ゆの市田・ホトルディングス  
株式会社(株)エム株式会社  
「シルバー」学校法人二本松学院  
東レエン지니어リング株式会社  
「ブロンズ」原田清雄 / 片山明 / 伊藤正人

※令和7年3月末現在

◆賛助  
京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の思いを次の二〇〇〇年へと繋いでいくため、広く賛助を募っております。このたび、左記の方より賛助をいただきました。賛助の趣意を踏まえ、大切に活用させていただきます。

- 水元 一明 様
- 栗田 入り 様
- Mariko Ebashi 様 / Harry Long 様 / Daniel Prangard 様
- Gabriella Strawn 様

## よびもの

### 博物館教育の問題

「教育は効率が悪い」  
教育室長に就任してから約二年を経た素直な感想である。

まず、講座・講演・ワークショップなど、目の前の対象に限定されるうえ、施設・人員・経費などの制約が、その対象人数の上限を自ずと決定してしまう。

また、「対象」も問題で、年齢はもちろん、愛好家から初心者まで様々なレベルの人が混在している。それぞれの段階に応じたプログラムがないと、教育効果を発揮することができない。小学生にいきなり微分積分をやれとってできるわけがないのである。私が、令和六年に「体験！昔のコピー技術―油紙を中心に―」という内容で「少年少女博物館くらぶ」を復活させた際に、小学校五・六年生に募集対象を限定したのは、歴史教育との連動が必要だったからである。美術というのは、高等な人文学的産物であるため、かなり対象を選んでしまう。恐竜や生き物といったこともキラーコンテンツを持つ自然科学系博物館との違いがここで、学習基盤が整っていないため効率の悪い小学校中学年以下の文化財教育普及事業にどれくらい経営資源を傾けるべきかは検討の余地がある。

博物館教育普及活動は、博物館制度発祥の地である欧米で重視されてきており、教育のプロであるエデュケーターが専属で置かれることが多い。欧米をモデルとした世界各地の博物館でも同様である。基本的に学童層が主対象になっているため、子どもの著しい成長期でもっともきめ細やかなプログラムが要求されるわけであるから、教育専門学芸員は必要であると思う。

それはともかく、この博物館教育を機能させるためには、対象が博物館に来る機会が必要になる。やはり、来てもらわないとなんともならない。

子どもが自発的にその動機を持つことは、なかなか難しい。その機会を提供するのは、親か学校かということになる。親は親で、美術への理解の有無は、こどもにもそうした機会を付与する動機をかなり左右する。フランスの社会学者のピエール・ブルデュー(一九三〇～二〇〇二)に『美術愛好…ヨーロッパの美術館と観衆』(木鐸社、一九九四年)という著作があり、ここではフランスの博物館が労働者教育を錦の御旗

にして予算獲得していながら、実際に来館するのは大学生や中高階級以上でほぼ占められている現状を歎嘆だと指摘しているが、過去、美術というのが富と有閑が養育する等な人文学的産物であった以上、日本でもその事情は共通している。

そうなる多様な社会階層のつぼである公立学校教育の役割は非常に大きくなる。学校のカリキュラムの一環に博物館訪問が組み入れられるかどうかというのは、かなり切実な問題なのである。ところが、国立博物館は、公立学校教育の仕組みから遊離している。公立学校教育の管理・施行は地方公共団体が担当するから、我々も苦勞している。

では、地方公立博物館は順調かというとそうでもない。平成三十年に文化財保護法が改正され、地方公共団体における文化財保護の事務は教育委員会の所管とされているものを、条例により地方公共団体の長が担当できるようにしてしまった。このせいで、奈良県をはじめ、文化財保護行政が首長部局に移管されてしまった所が多い。本来、文化財保護法制定時の趣旨も、博物館教育は、教育委員会との連携が必要との認識が根底にあったと思う。しかし、現状は、教育より、観光などによる経済効果を優先するに至ったといえる。文化財保護の原資調達という点からやむを得ない面があるのは認めるが、ここに国家百年の大計があるかという疑問である。文化財のような国内コンテンツは国内需要を基底にするのが持続可能性の第一歩と私は思っている。あるが、日本史や美術といった人文系教育の軽視は、その基盤を若い世代からこっそりと崩している。高齢化社会に伴い社会保障関係費が急増し国家予算が硬直化している現状、文教費を含めて厳しい査定が行われるのは、やむを得ないかと思う。しかし、教育には失敗が許され難いため実験的要素を持ち込むことがかなり難しく、過去実績をベースにした緩やかな発展経緯をとらざるを得ないため、保守的であり成果も見えにくい。税金を頂戴している以上、「費用対効果」を説明するのは義務なのであるが、教育・研究というものの難しさについては、博物館だけに限定されるものでなく、もう少し国民の皆様にも将来投資という観点で中長期的視野を持って頂きたいと思う。

京都国立博物館教育室長 大原嘉豊

## 講座・イベント

### 《特別展「日本、美のつぼ—異文化交流の軌跡—」記念講演会》

- 4月26日(土)「遣唐留学生の生きた玄宗時代の風景  
—阿倍仲麻呂・吉備真備を中心に—」  
(公財) 東洋文庫 研究員・元明治大学文学部教授 氣賀澤保規 氏
- 5月17日(土)「交流のつぼに<sup>たぎ</sup>る<sup>まきえ</sup>金時絵—輸出漆器のおはなし—」  
京都国立博物館列品管理室長 永島明子
- 5月24日(土)「江戸時代の異文化交流  
—新出の「二十四孝図巻」を中心に—」  
京都国立博物館保存修理指導室長 福士雄也
- 5月31日(土)「往来がもたらす技と美  
—先史から古代の日本と東アジアの交流—」  
京都国立博物館考古室長 石田由紀子

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし講演会当日の特別展観覧券が必要)。

※参加ご希望の方は、各講演会3日前12時までに京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。事前申し込み制、先着順(定員になり次第受付終了)。

### 《令和7年度夏期講座のお知らせ》

- 【テーマ】 国宝再考  
【開講日】 8月1日(金)・2日(土) \*1日3講座、計6講座となります。  
【会場】 平成知新館 講堂  
【定員】 200名  
【聴講料】 3000円(税込)  
※申込方法・講師・演題は後日ウェブサイトに掲載いたします。

## これからの展覧会

- ◆ 修理完了記念 特集展示 重要文化財 釈迦堂縁起  
7月8日(火)～8月24日(日)
- ◆ 特集展示 新取品展  
7月8日(火)～8月24日(日)
- ◆ 特別展 宋元仏画—蒼海<sup>うみ</sup>を越えたほとけたち  
9月20日(土)～11月16日(日)

### ◆ 京都国立博物館の庭園を紹介する無料アプリケーション ◆ 「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9:30～16:30

料金：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

>詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>



X(旧Twitter)・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラリンサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

### ◆ 名品ギャラリーの休止予定

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：3月25日(火)～4月17日(木)

6月17日(火)～7月6日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

### ご利用案内

【開館時間】<1月2日～4月17日、6月17日～9月18日>

9:30～17:00

<4月19日～6月15日>

9:00～17:30

\*全曜日は20:00まで開館

\*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】【特別展「日本、美のつぼ」】

<4月19日～6月15日>

一般2000円(1800円)、大学生1200円(1000円)、  
高校生700円(500円)

\* ( )内は前売(4月18日(金)まで販売)、団体20名以上。

\*中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【庭園のみ開館期間】

<3月25日～4月17日><6月17日～7月6日>

一般300円、大学生150円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者

とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

\*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日(ただし5月5日(月・祝)は開館)

4月18日(金)、5月7日(水)

### アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和7年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

